ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	中村　佳子

主な担当科目	オペラ演習Ⅰ②,歌うための基礎トレーニング,歌曲特別演習①,歌曲特別演習②,修士歌曲特別演習①,修士歌曲特別演習②,身体表現法②,声楽

2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	2025年より導入されるセメスター制の特性を生かし、学生が到達目標を明確に意識しながら確実に力をつける授業運営を目指す。二年生以上の旧カリキュラム履修者とも学修内容に差が生じないよう配慮する。新規の必修科目「歌うための基礎トレーニング」では、声楽を専攻する学生に即した体系的な指導により、正確な音程、リズム、和声感を備えた音楽的な歌唱力とソルフェージュ力の向上を図る。学生たちの学ぶ意欲と自律的な成長をサポートしたい。
2025年の教育に関する自己評価	セメスター制の導入に際し、実技・演習科目では課題の数を精選し、集中的かつ効果的な学修を目指した授業を行った。到達可能な目標設定により学生が成果を実感し自信を深める姿が見られた点は成果があったように思う。春学期に不合格となっても秋学期にすぐ再履修できる制度は、自身にとっても改善点を明確にし、より意欲的に授業に取り組む契機となった。大学オペラ公演では、学年を横断した教育プロジェクトとして学生をサポートすることに最大限尽力した。

2025年のFD活動に関する自己評価	これまで学生生活委員会として学生相談等に多く関わってきた立場として、2025年のFD全体研修会は既存の知識や経験を整理、再確認して理解を深める機会となった。ハラスメントの防止のみならず、学生の多様化や留学生対応などの課題の多くが、価値観や社会の変化を背景としたコミュニケーションの問題と密接に結びついている点を改めて認識した。全体研修で得た知見を部会・分科会のFDで共有し、安心、安全な教育環境の維持に取り組みたい。
授業改善のために取り入れた研修内容	FD研修で学んだコミュニケーションの重要性を踏まえ、授業においては教員の意図を一方的に伝えるのではなく、学生がどのように感じたかを聞くように心掛けた。特に留学生に対しては課題の目的や評価の基準を言語化して伝えるとともに、学生が質問や意見を述べる機会、雰囲気造りを大切にしている。またオペラ演習などの授業では、学生の多様な背景を前提にグループでの役割や進め方をアドヴァイスし、コミュニケーションが円滑に行われるよう工夫した。

2025 年度（春学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：424　教員名：中村　佳子

1）アンケート結果に対する所見

「歌うための基礎トレーニング（春 A クラス）」は今春からの新規科目であるが、Q1-3について概ね良い回答を得られた。この授業の到達目標を達成できた、専門技能や実践力を得られたとの回答率が高かった。「ミュージックコーディネート演習①」はオムニバス形式で進められており実際に担当したのは1回であるが、様々な専攻の教員が体験に基づく実践の方法を講義するため学生たちは興味を持って臨んでいることがわかる。「舞台表現演習①」は、今年度は大学オペラ公演「ラ・ボエーム」に出演するため 2 年生以上が履修した科目である。学生たちは真摯に取り組み多くを得たと感じる。

2）要望への対応・改善方策

「歌うための基礎トレーニング」では授業以外の学修時間を上げるため、復習のみではなく自宅学習の新たな課題を与えていく。読譜や音感などの基礎力を上げるための科目であるが、単に訓練の時間にならず興味を持って学べる工夫をしていきたい。「ミュージックコーディネート演習①」は今後も実演を交えて生のアウトリーチを疑似体験できる講義を実施したい。

「舞台表現演習①」はオペラの稽古であるため、ひとりひとりの要望に応えることは難しいが、できるだけ稽古場に参加して学生たちの声を聞き、共に舞台を作る姿勢で臨みたい。

3）今後の課題

「歌うための基礎トレーニング」はどこまで実力を上げることができるか、演奏に生かせるかが最終的な授業評価となる。学生の「できない」に寄り添って、意欲を失わない授業の組み立てに尽力する。「ミュージックコーディネート演習①」ではアウトリーチ活動参加メンバー選出オーディションに、なるべく質の高い演奏で臨めるようなサポートができたら良いと考えている。

「舞台表現演習①」では、対象の舞台公演に対し、きちんとした知識と責任を持って参加するよう意識づけをすることが重要である。いずれも授業に入るまでの準備を計画性をもって行うことが求められている。

以　上

2025 年度（秋学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：0424　教員名：中村　佳子

1） アンケート結果に対する所見

「オペラ演習Ⅰ②」はオペラの合唱シーンを採り上げて学んでいるが、概ね全員に授業の意図が伝わっており、専門技能・知識と自己表現力を多く獲得できたとの評価を得た。履修者の人数や声部のバランス等によりシラバス通りに行かないところもあるが、舞台上で演じる事の基礎は身についていると感じる。
「舞台表現演習②」は大学オペラ公演に直結する科目であるが、専門技能・知識、文化・教養、自己表現力を身に付けることができたと 100%の学生が回答しており嬉しく思う。
「歌うための基礎トレーニング秋A」は声楽コースに特化して「正確な読譜と正確な音程で歌う力」を養う科目として今年度からスタートした。Q1-3,Q5-6,Q10 で「そう思う」100%であったことから、学生たちにこの意図が伝わり、この授業の必要性を感じていることが予想される。
「演奏とからだⅡ」は授業をコーディネートする立場にあるが、多方面からの様々なアプローチに興味を持って意欲的に取り組んでいると感じる。
「音楽活動研究①②」「ミュージックコーディネート演習②」について、授業は春学期のみの担当だが、「音楽の贈り物」を通して積極的に専門技能・知識、コミュニケーション能力を付けている様子が窺える。
「声楽」のレッスンについての回答では、学生たちは高い向上心を持って受講していることが見て取れる。主専攻なので当然の面もあるが、授業時間以外の学修（予習復習）も 100 分を超えており、概ねバランスの取れた学修状況になっている。

2）要望への対応・改善方策

「オペラ演習Ⅰ②」が2限のため、ブリオの片付等で昼休みに影響することがあった（自由筆記）件については今後注意し善処する。演習科目のため、前後の準備・片付けの時間を考えこの時間割に置いていることを予め説明する。

3）今後の課題

「オペラ演習Ⅰ②」、「歌うための基礎トレーニング秋A」などの演習授業では、時間外学修の内容と時間をより充実させるため、積極的に課題を考えて行く。

以　上